

## 入選

### 地域を支える祖母

山形県 第五中学校  
3年 伊藤杏音

私の母方の祖母は、今年後期高齢者の年になりましたが、昨年まで現役の看護師として働いていました。50年以上、看護師として働いてきたそうです。そんな祖母も、昨年度で現役を引退しました。やはり体力の衰えを感じたことと、もう十分働いたのでこれからはゆっくり過ごしたいという思いからのようです。

確かに祖母は腰が少し曲がり、膝も痛いと話しており、以前より長い距離を歩くのがつらくなっていました。まして今は、家に1人で住んでいるため、母も父もそんな祖母の姿を見ていつも心配しています。

私は校外活動部に所属しており、たびたび市外の練習会場へ行かなくてはなりません。両親が仕事で都合がつかないときは、祖母の家に泊めてもらったり、練習会場に送迎してもらったりしています。祖母宅にいるときに、ときどき電話や訪問で相談にやって来る人がいます。

何の相談なのか祖母に尋ねると、地域のお年寄りが医療的なことでわからないことがあると、祖母に聞きに来るのだと教えてくれました。先日は祖母の中学の同級生だという人が、自分の血液検査の結果をもって相談に来ていました。私は祖母に、「病院へ行けばいいんじゃないの?」と話していましたが、祖母は、

「ここはバスも通っていないから、車の運転ができない人は簡単に受診できない。だから、受診したほうがいいのか、受診するならどこに受診するといいいのか、相談に来るんだよ。困っている人がいたら、助けるのは当たり前。ここは助け合っていないと生活が成り立たないんだよ。」と答えました。

私の住んでいる地域では、バスは通っていないけれど乗り合いタクシーがあったり、タクシーを利用しても、高額にならないところに医療機関があったりします。しかし、祖母の住んでいる地域では、バスはもちろん通っていないし、乗り合いタクシーなどもなく、近くに医療機関もありません。そのため、車の運転ができない人は、高額なタクシー代を払うなど医療費以外にお金がかかるので、祖母に相談しに来るのだそうです。

また、医療機関に電話で問い合わせしたとしても、自分の思いや症状を上手に伝えるのが難しいと思う人が多いのも、理由の1つとのことでした。私は、祖母がどんな人の相談にでも耳を傾け、丁寧に説明している姿に感動しました。

祖母が今の家に嫁いできたのは、50数年前のことで、当時は看護師の仕事に対して偏見を持つ人も多かったそうです。しかし、今ではいろんな人が祖母を頼ってくるそうです。過疎化が進んでいる今、祖母のような存在が地域の人には支えになっているのだと感じました。

私の住んでいる地域も不便なところが多いため、困っている人がいたら祖母のように、小さいことでも耳を傾け支えていけるような人になりたいと思います。